



学び続ける教職員、学校をめざして

今年になって「二季」という言葉が話題になっているのを知っていますか。

近年地球温暖化の影響で夏と冬が長期化する日本の気候を表したものと言われています。暦の上では「大雪」(たいせつ)を迎え、本格的に冬が到来する季節になりました。明石市では雪が降ることは少ないですが、今年の初冠雪は北海道の利尻山が10月7日に全国で初めて観測されています。昨年より15日遅い観測のようです。全体的に秋の高温が続き、例年より初冠雪の時期が遅れている傾向が見られているそうです。二学期も残り13日です。まずは、体調管理に気を付け元気で学校生活を過ごしましょう。

さて、本校は今年度(令和7年度)と来年度(令和8年度)について明石市教育

委員会から「道徳教育」推進の指定を受けています。年度当初からローテーション授業(担任以外にも副担任の教職員も順番に当該学年の学級で授業を行うこと)

や教職員研修会、校内研究授業を行ってきました。特に、夏季休業中の8月20日には道徳教育や道徳指導法などたくさんの著書を執筆されています元龍谷大学教授の牧崎幸夫先生をお招きし、教職員研修会を行いました。その中で、牧崎幸夫先生自らが本校の教職員を生徒に見立て、模範授業をしていただきました。さらに、11月27日にも2年4組で教職員を相手に模範授業をしていただき、その後「事後研究会」も行いました。実は、この模範授業の前に牧崎幸夫先生が授業をされる教材と同じ教材で2年生の教職員が授業を行い、そして他の教職員が参観することも行いました。写真1は模擬授業とは別の教材を題材にして「道徳授業の命」である中心発問を3名~4名くらいのグループで考え、各グループの意見を交流し中心発問には何が最適かを検討している場面です。

平成29年3月改訂の「中学校学習指導要領」第一章総則には「道徳教育は自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる**道徳性(心)を養うことを目標**とすること(中略)」とあります。

道徳科の授業をはじめすべての教育活動を通して、生徒たちとの対話の中で「相互理解」「友情」「思いやり」「生命の尊重」等の道徳性(心)を育てる教育をさらに推進していきます。

本校の教職員も日々学び続けています。

話は変わりますが、11月30日に魚住住民センターでの「秋季ふれあい楽学会」に私は参加しました。元中学校保健体育教員・養護学校教員の腰塚勇人氏による講演を聴きました。(写真2)演題は「命の授業~ドリー夢メーカーと今を生きる」でした。腰塚勇人氏は夢であった中学校保健体育教員になり、生徒たちと夢を語り、夢を追いかける日々を過ごされていました。ところが、2002年3月にスキー事故で首の骨を折り、一瞬にして首から下が全く動かない状態になる大ケガをされました。その後、懸命のリハビリで学校現場に復帰されましたが、自らの経験談を多くの方に伝えようと教員を卒業され、講演活動をはじめられたそうです。腰塚勇人氏の講演の中で、私が特に印象に残った言葉を紹介します。

※ 5つの誓い

- ・口は人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。・目はよいところを見るために使おう。
- ・耳は人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう。・手足は人を助けるために使おう。
- ・心は人の痛みがわかるために使おう。

写真1



写真2

